

問1 1281年にモンゴル帝国が二度目に日本へ襲来した戦いを何という？

1. 承久の乱 2. 文永の役 3. 弘安の役 4. 元寇

問2 後鳥羽上皇が鎌倉幕府を倒そうとして起こし、幕府がこれを鎮圧した戦いを何という？

1. 元寇 2. 承久の乱 3. 元弘の乱 4. 宝治合戦

問3 源頼朝の死後、将軍を補佐して幕府の実権を握った北条氏の役職を何という？

1. 管領 2. 老中 3. 将軍 4. 執権

問4 モンゴル帝国が中央アジアから支配下に置いた、西側の地域はどこ？

1. ヨーロッパ東部 2. 東南アジア 3. 西アジア 4. 地中海沿岸

問5 平氏が滅亡し、武士が政治の実権を握るきっかけとなった出来事が起きたのは西暦何年？

1. 1189年 2. 1192年 3. 1185年 4. 1180年

問6 鎌倉幕府において、将軍が御家人に領地などを与えることを何という？

1. 御恩 2. 土地の安堵 3. 軍役 4. 奉公

問7 鴨長明が著した『方丈記』のように、作者自身の見聞や感想などを自由な形式で書いた文章のジャンルを何という？

1. 物語 2. 随筆 3. 日記 4. 日記文学

問8 東大寺南大門に安置されており、運慶と快慶らによって制作された力強い木造彫刻を何という？

1. 十一面観音像 2. 阿弥陀如来像 3. 釈迦如来像 4. 金剛力士像

問9 鎌倉幕府の中央に置かれた主要な機関で、政所や侍所と並び、裁判などを担当した組織を何という？

1. 侍所 2. 政所 3. 評定所 4. 問注所

問10 法然の教えを継承し、さらに全国へと広めていった弟子は誰？

1. 空海 2. 法然 3. 親鸞 4. 最澄

問11 マルコ・ポーロが記した『東方見聞録』の別名を何という？

1. 東方見聞録 2. 世界の記述 3. 三国遺事 4. 元史

問12 「（空欄）…、諸行無常の響きあり」という一節で始まる、平氏の滅亡を描いた物語を何という？

1. 祇園精舎の鐘の声 2. 月日は百代の過客にして 3. 吾輩は猫である 4. 春はあけぼの

問13 琵琶法師により、当時の人々に語り伝えられた鎌倉時代の軍記物語を何という？

1. 枕草子 2. 平家物語 3. 方丈記 4. 源氏物語

問14 承久の乱の後、朝廷の監視と西日本の武士を統制するために京都に置かれた機関を何という？

1. 評定衆 2. 京都守護 3. 鎮西探題 4. 六波羅探題

問15 『方丈記』において、乱世の出来事を通じて描かれた仏教的な思想を何という？

1. 浄土信仰 2. 末法思想 3. 無常観 4. 現世利益

問16 北条泰時が制定した、日本最初の武家法の別名を何という？

1. 貞永式目 2. 公事方御定書 3. 建武式目 4. 御成敗式目

答え合わせ・解説

問1	答え 3 弘安の役	1281年、元軍は再び大軍を率いて九州へ攻め寄せました。これが弘安の役です。幕府は事前に築いていた防塁や備えによって防戦し、元軍の上陸を阻みました。また、暴風雨により元軍の船団が壊滅的な被害を受けたことで、幕府軍の勝利が確定しました。
問2	答え 2 承久の乱	1221年、後鳥羽上皇は幕府を倒すよう命じましたが、北条政子の演説で結束した幕府軍が京都へ進軍し、朝廷軍を撃破しました。この勝利により、幕府の権力は決定的なものとなりました。
問3	答え 4 執権	執権は、はじめは將軍の補佐役として置かれていましたが、北条時政が初代となって以降、北条氏が世襲するようになりました。執権政治のもとでは、將軍は形式的な存在となり、北条氏が実質的な幕府の最高指導者として全国を政治を統括しました。
問4	答え 1 ヨーロッパ東部	モンゴル帝国の支配はアジアにとどまらず、西へ大きく拡大しました。中央アジアを経て、東ヨーロッパにまで達しました。これにより、ユーラシア大陸の東西をつなぐ広大な支配圏が確立されました。
問5	答え 3 1185年	1185年は、壇ノ浦の戦いで平氏が滅亡した年です。この年、源頼朝は朝廷から守護・地頭の設置権を認めさせ、全国的な支配力を強めました。これにより、貴族中心の政治から、武士が政治の主導権を握る中世社会への移行が決定づけられました。
問6	答え 1 御恩	「御恩」とは、幕府が御家人に対して本領安堵（先祖代々の領地の支配を認めること）や、新恩給与（新しく獲得した土地を与えること）を行うことです。御家人はこれに対する見返りとして、戦いの際に軍役を果たしたり、番役を務めたりしました。
問7	答え 2 随筆	随筆は、特定の形式にとらわれず、著者が感じたことを素直に綴る形式です。鴨長明の『方丈記』は、社会の無常を独自の視点で捉えた傑作として、中世文学の代表とされています。
問8	答え 4 金剛力士像	金剛力士像は、阿形（あぎょう）と吽形（うんぎょう）の二体で構成される巨大な仏像です。寄木造という技術を用い、筋肉の盛り上がりや表情に至るまで、極めて現実的で力強い表現がなされています。これは当時の武士たちの気風を反映したもので、鎌倉文化の代表作です。
問9	答え 4 問注所	問注所は、鎌倉幕府の中央機関の一つで、主に御家人の訴訟や裁判、書類の管理を担当しました。侍所が軍事・警察を、政所が一般政務を担当したのに対し、問注所は法律に基づく冷静な判断を行う機関として、幕府の権威を高める役割を果たしました。
問10	答え 3 親鸞	親鸞は、法然の弟子として学び、その教えをより徹底させました。特に「悪人正機」という思想を打ち出し、罪深い人間ほど阿弥陀仏の救いが必要であると説きました。彼は師匠の教えを独自の解釈で発展させ、浄土真宗を開いて全国に広めました。
問11	答え 2 世界の記述	『世界の記述』（あるいは『驚異の書』とも呼ばれる）は、モンゴル帝国（元）のフビライ＝ハンのもとでの体験、中国の高度な文明、さらには日本などの周辺国の様子が描かれています。これにより、ヨーロッパの人々に東洋の地理的な広がりを伝え、当時の人々の世界観を根本から書き換えました。
問12	答え 1 祇園精舎の鐘の声	『平家物語』は、この冒頭のフレーズが示す通り、栄えたものも必ず衰えるという「諸行無常」の思想を根本に置いています。鎌倉時代に成立したこの物語は、個人の生きざまや戦の悲哀を鮮明に描き、当時の文学としての到達点を示しました。
問13	答え 2 平家物語	『平家物語』は、平氏の滅亡までの過程を力強く描き出した文学作品です。この物語は書物として読まれるだけでなく、琵琶法師と呼ばれる人々が全国を巡り、琵琶を奏でながら口頭で語り伝えることで広く庶民から武士まで浸透しました。その語りは「平曲」とも呼ばれ、独特の節回りで当時の人々の心を打ちました。
問14	答え 4 六波羅探題	幕府は京都に「六波羅探題」を設置しました。これは朝廷や西国の武士を監視し、京都周辺の治安維持や裁判を行うための重要な出先機関でした。
問15	答え 3 無常観	無常観とは、この世のすべての存在は常に変化し、永遠に続くものはないという仏教の教えです。鴨長明は『方丈記』の中で、京都の大火や地震などの惨禍を描き出し、人間の力ではどうしようもない儚さを無常観として表現しました。
問16	答え 1 貞永式目	この時に制定された法律は「御成敗式目」として知られていますが、制定された年号をとって「貞永式目」とも呼ばれます。貴族の慣習ではなく、武士たちの間に蓄積されてきた慣習を尊重したのが特徴で、武士だけでなく、当時領地を管理する上で法的保護を必要としていた人々にとっても重要な指針となりました。